

～笑顔で男女（みんな）が共に輝くあさぎり町～  
平成28年度  
男女共同参画に関する町民意識調査報告書  
【概要版】

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

あさぎり町では、男女が互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、その形成に向けた取組みを推進しています。

男女共同参画に関する町民の意識や実態の変化を分析し、現状とこれからの取り組む課題を把握するとともに、男女共同参画推進基本計画を見直すための基礎資料として活用し、今後の男女共同参画を効果的に推進することを目的として実施しました。

### 2. 調査設計

#### (1) 調査対象地域

あさぎり町全域

#### (2) 調査対象

町内に在住する18歳以上の男女1,500人

#### (3) 調査対象者の抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

#### (4) 有効回収率

35.3% (回収数529通)

#### (5) 調査方法

送付：配達員を通じ届ける（一部郵送） 返信：受取人払郵送

#### (6) 調査期間

平成28年9月14日～平成28年10月27日

### 3. 調査項目

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| (1) 回答者について           | (2) 男女平等について             |
| (3) 固定的役割について         | (4) 女性の活躍について            |
| (5) 家庭生活の役割について       | (6) 女性の働き方について           |
| (7) M字カーブの原因について      | (8) 仕事・家庭生活・地域活動等の両立について |
| (9) 男女共同参画に関するご意見やご要望 |                          |

## 調査結果の概要

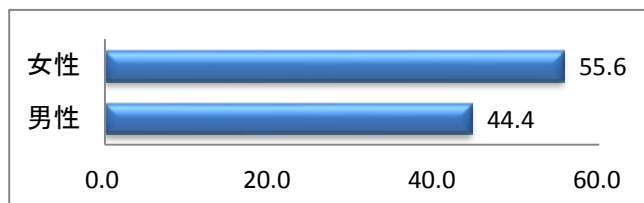
あさぎり町の男女共同参画に関する町民意識調査については、住民基本台帳から無作為抽出した1,500人の方に9月14日に発送し、10月27日で締切り集計しました。

529通の返信があり、回収率は35.3%となっています。なお、今後更にすべての調査結果の分析を詳細に進め、最終的には調査の結果を反映した今後の取組みの糧となるように調整したいと考えております。

## 回答者のプロフィール

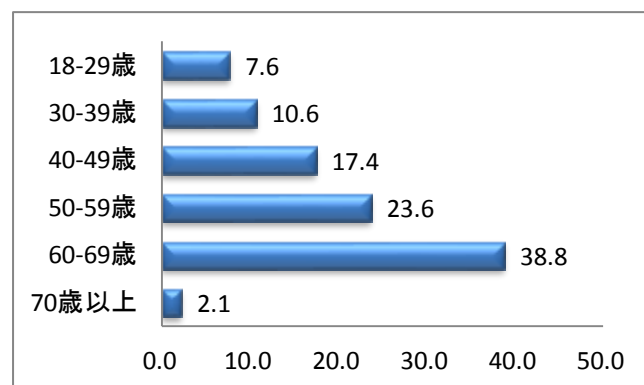
### (1) 性別

男女の割合は、「男性」44.4%、「女性」55.6%で、女性の割合が高い結果となりました。



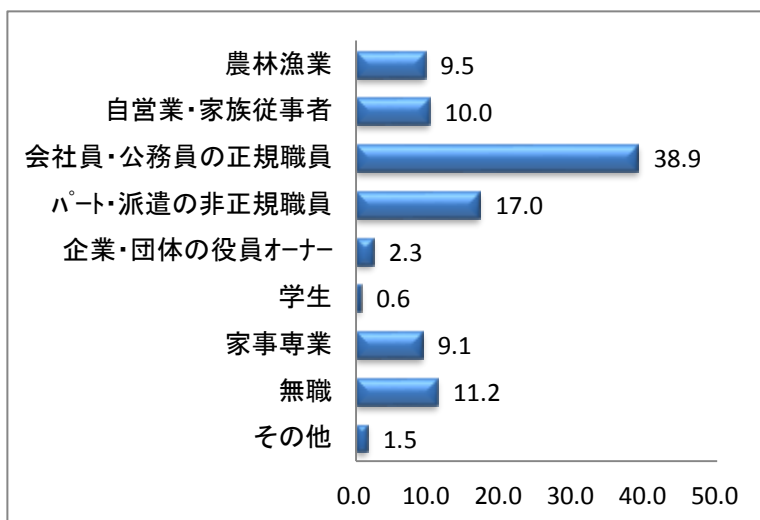
### (2) 年齢

年齢構成では人口割合と同様、60～70歳代で回答の4割と最も多く、年齢が高くなるにつれ回答率が高い結果となりました。



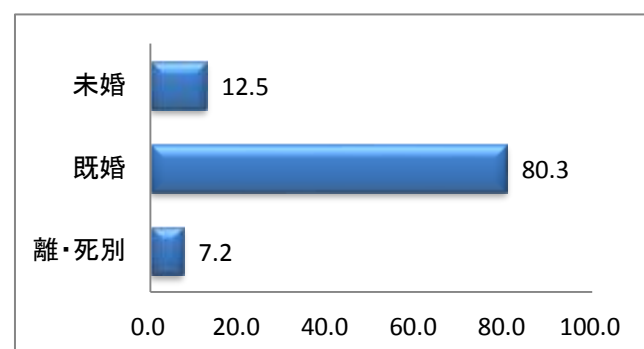
### (3) 職業

職業別では、会社員・公務員が4割程度になっていますが、次に多かったのはパートや派遣の非正規労働者が続いています。また前回調査からすると農林漁業や自営業の割合が減ってきている状況です。



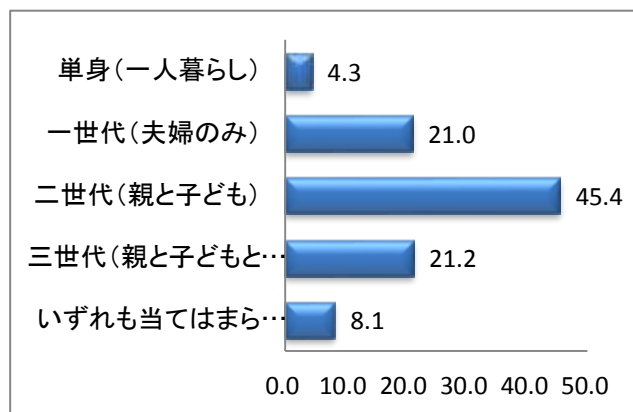
### (4) 婚姻状況

「既婚」が80%を超えており、「未婚」が12.5%、「離・死別」が7.2%となっています。



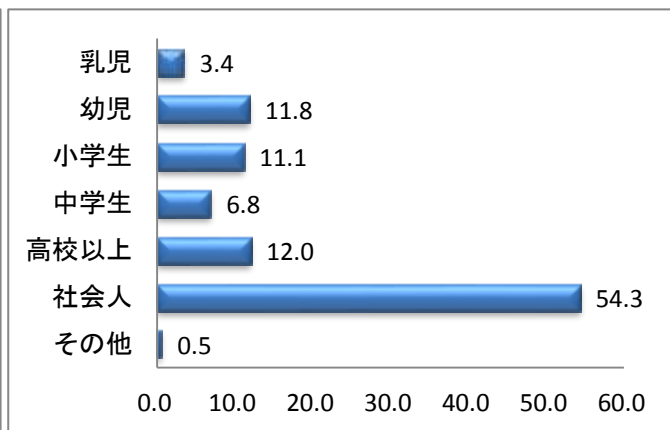
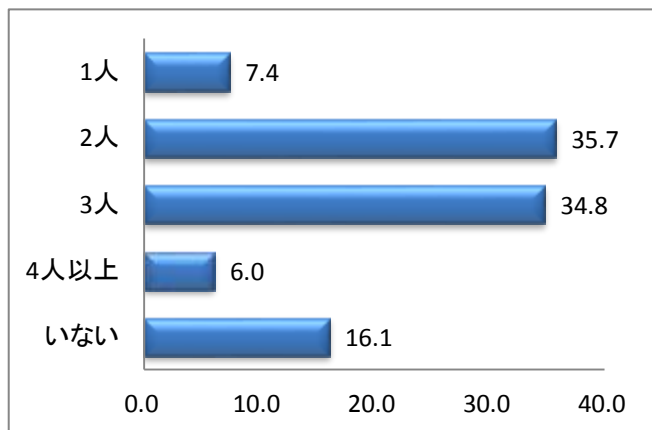
### (5) 家族構成

家族形態については、「親と子（二世帯世帯）」が45.4%と最も多く、次いで「親と子と孫（三世帯世帯）」が21.2%、「夫婦のみ（一世帯世帯）」が21.0%と続いています。



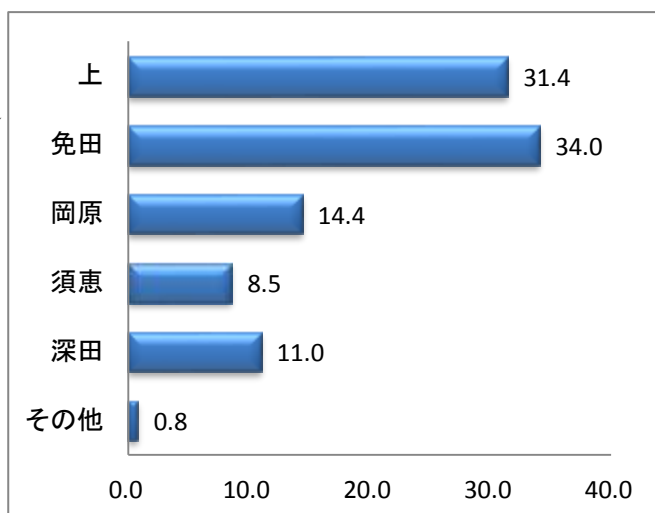
### (6) 子ども

子どもがいるご家庭は8割を超え、内訳としては、回答者の年代が高い方が多いこともあり、社会人の54.3%が最も多く、次いで、高校生、乳児が続いています。



### (7) 居住地区

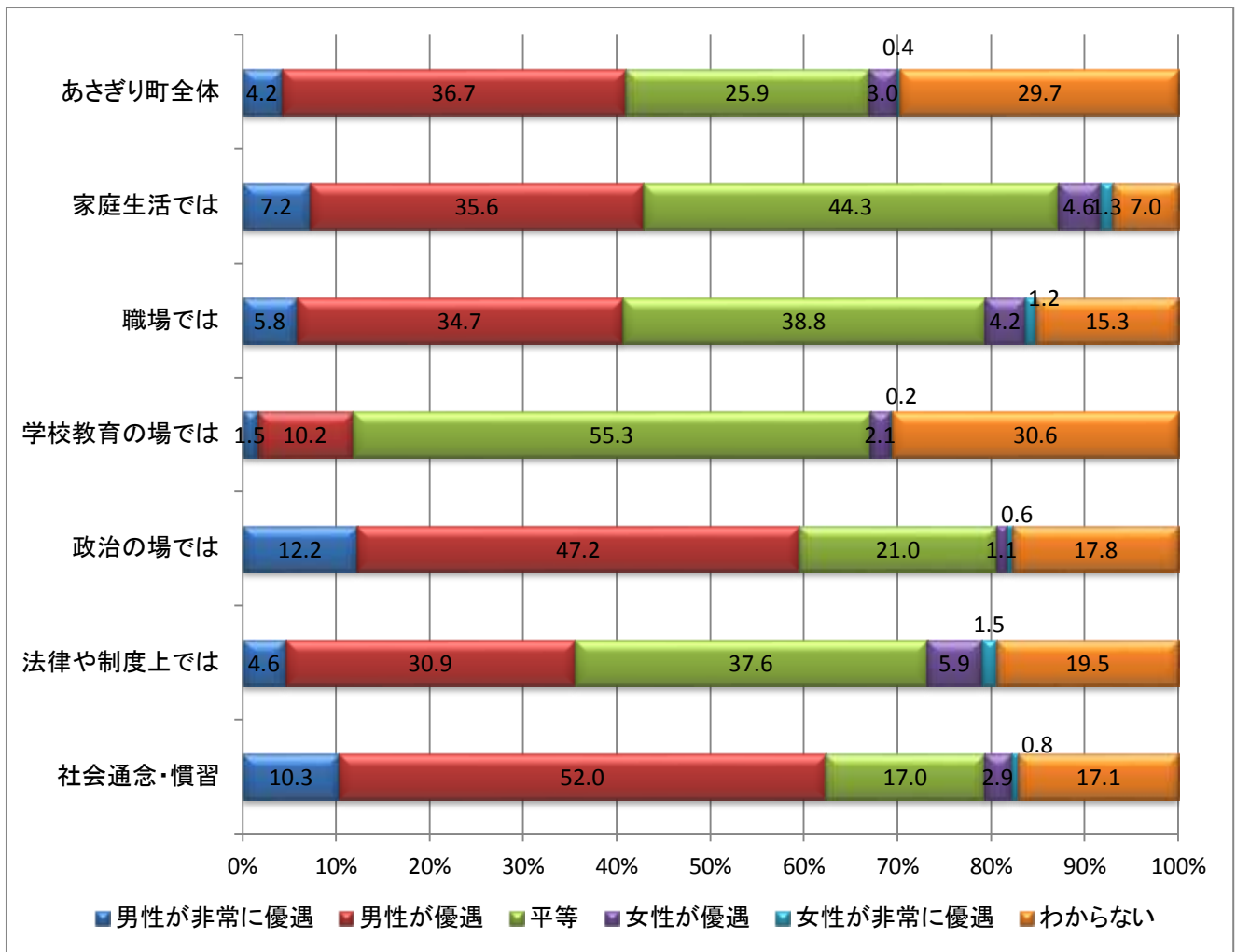
「免田」が34.0%と最も多く、これに「上」の31.4%、「岡原」の14.4%、「深田」の11.0%、「須恵」の8.5%と人口割合に比例した回答となっています。



## 男女共同参画に関する意識について

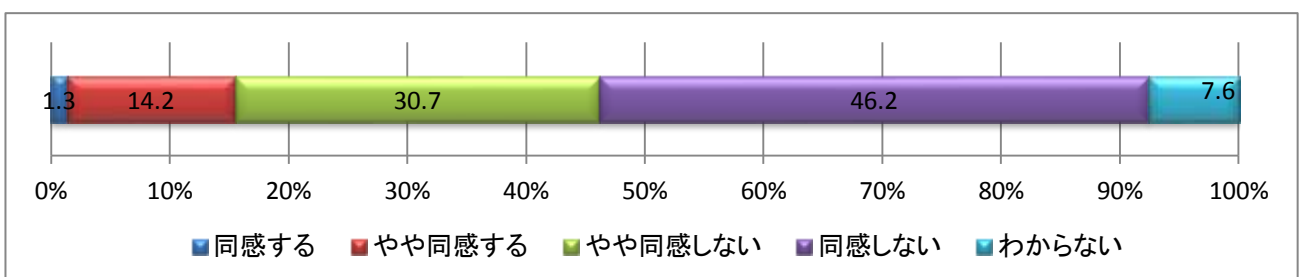
### 1. 男女平等について

「あさぎり町全体」「政治の場」「社会通念・慣習」の分野ではすべて『男性優遇感』（「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の回答が最も多くなりましたが、それ以外は『平等』という回答が最も多く、6年前の調査より平等感が高くなった結果となっています。特に、「学校教育の場」「家庭生活」では『平等感』が高い結果となっています。



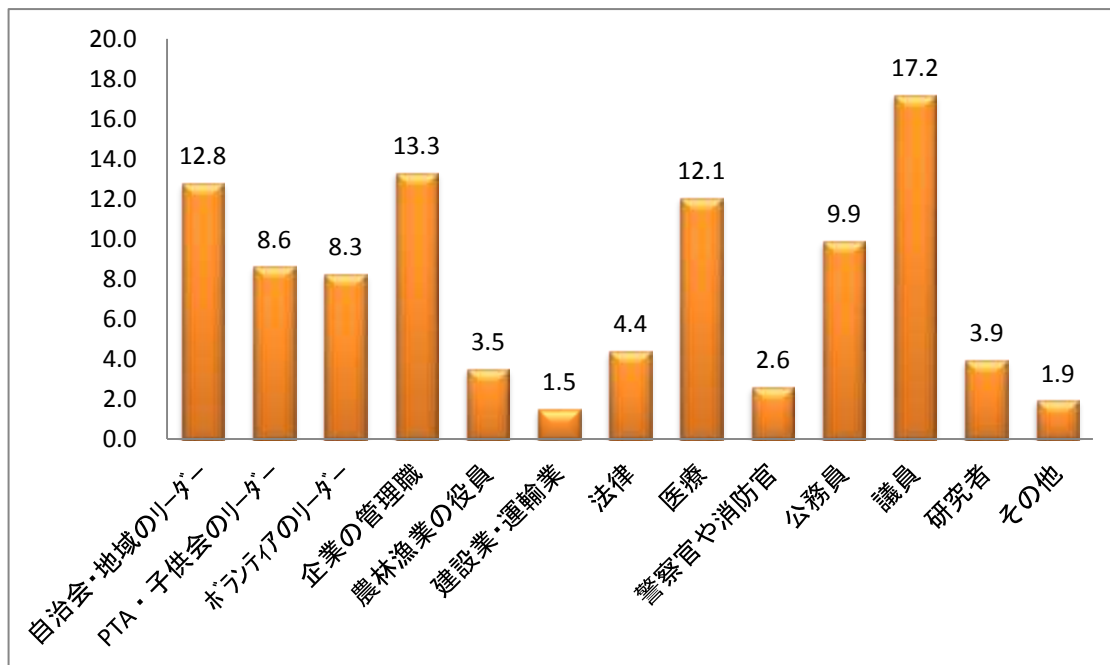
### 2. 性別による固定的役割分担の考え方について

『男性は仕事、女性は家庭』という性別によって役割を固定する考え方については、「やや同感しない」「同感しない」を合わせると76.9%となり、6年前の調査より大幅に固定的性別の役割に同感しない方が多くなった結果となりました。



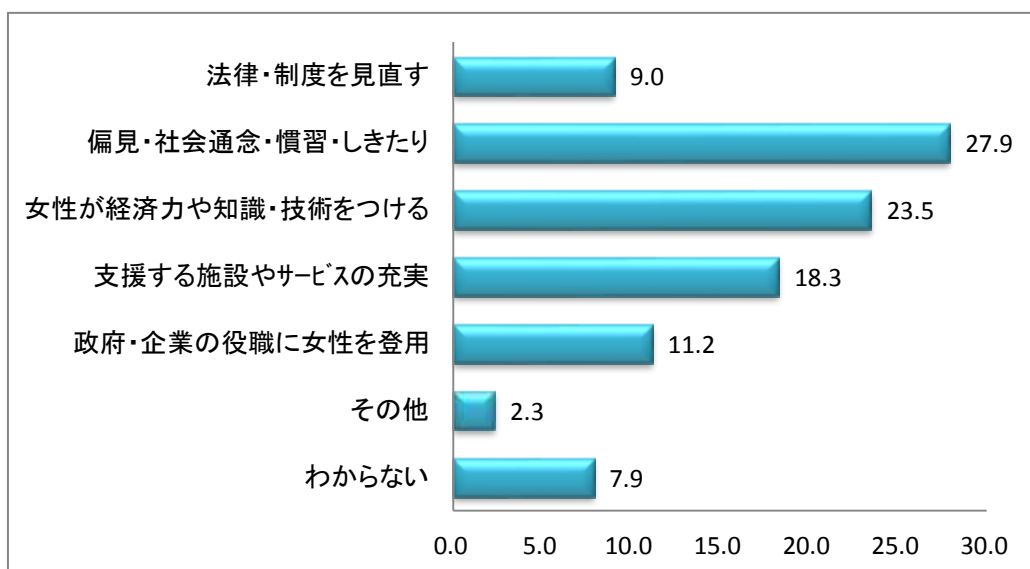
### 3. 女性の活躍する分野について

女性の活躍が進むのがよいと思われる分野については、「議員」「企業の管理職」という回答が多くなりました。また、自治会やPTA、ボランティアといった『地域で活動する団体のリーダー』に女性の活躍を望む回答も多くなっています。



### 4. 男女があらゆる分野で平等になるために重要なことについて

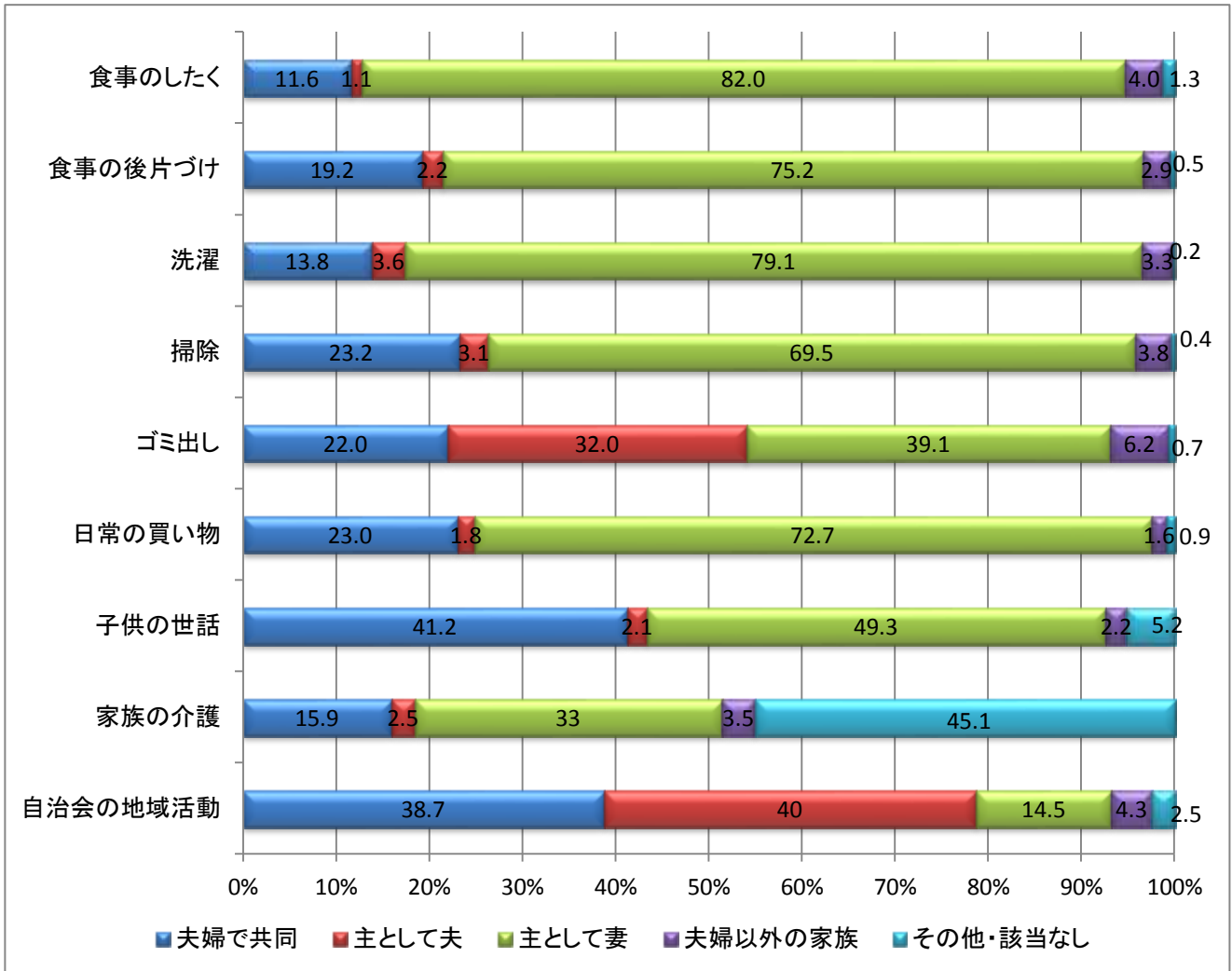
男女平等に重要なことは、6年前の調査と同じく「偏見や社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く、「女性が経済力や知識・技術をつける」「支援する施設やサービスの充実」が続いています。



## 家庭生活に関する意識について

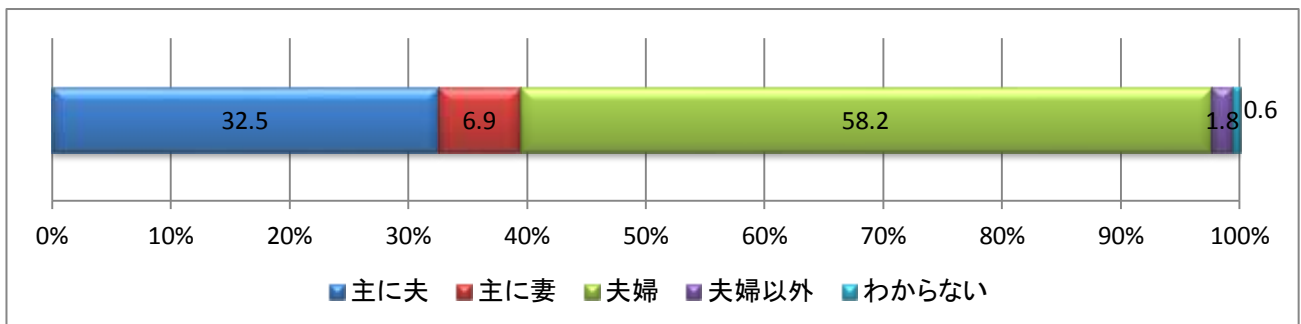
### 1. 家庭生活の役割分担について

家庭生活の役割分担については、全般的に主として妻が担う部分が多く、これまでの設問で見られた社会での平等感の高まりとは反対に、家庭内では依然として女性の役割が多い結果となりました。



### 2. 家庭における重要な事柄の決定権について

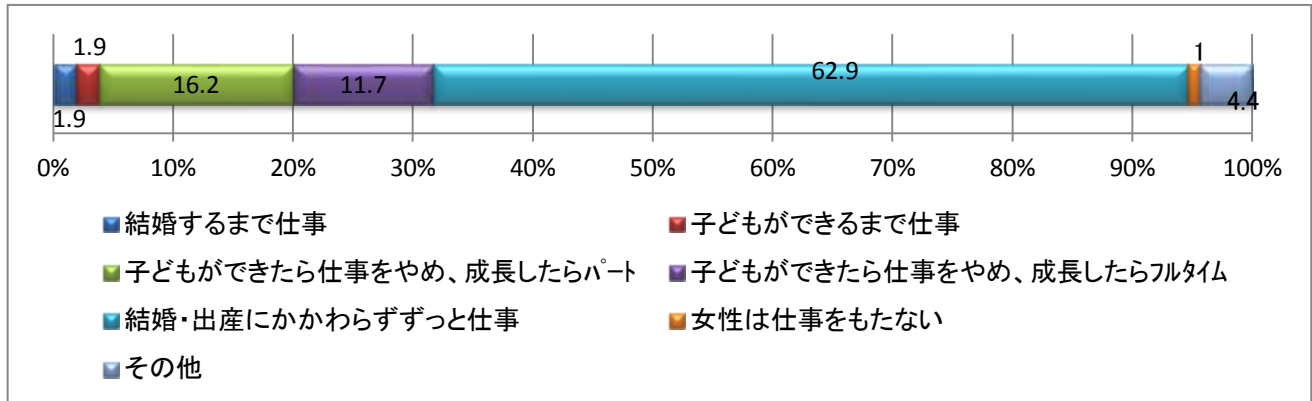
家庭における重要な事柄の最終的な決定者については、前回の調査では「主に夫」「夫婦」がほぼ同じ割合で最も多い回答でしたが、今回は「夫婦」が58.2%と最も多い結果となり、夫婦で話し合っ決定するケースが多くなっています。



## 働き方について

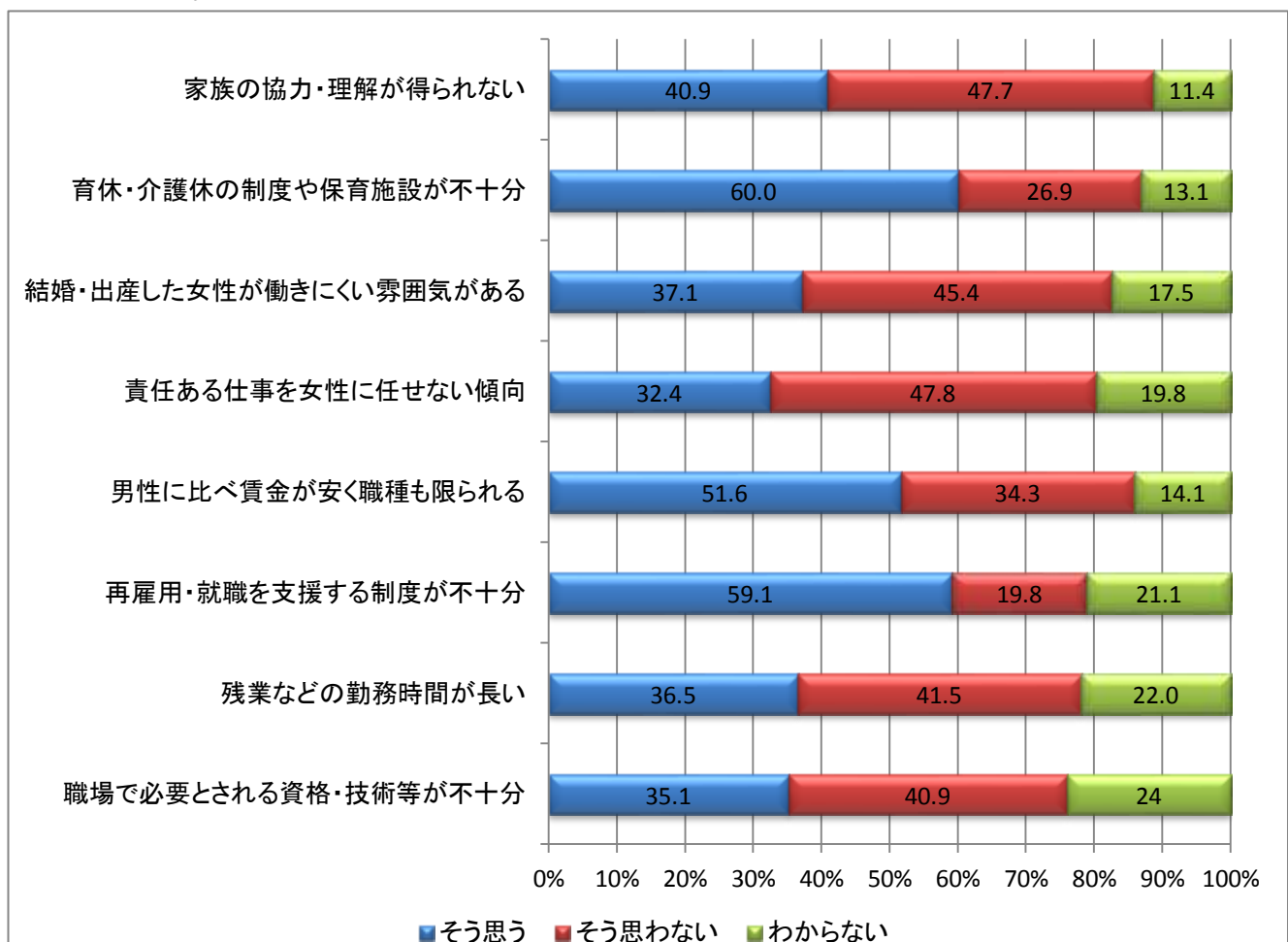
### 1. 女性の働き方について

女性が仕事をもつことについての考え方では、「結婚・出産に関係なく仕事を続ける方がよい」という回答が62.9%と最も多い結果となりました。



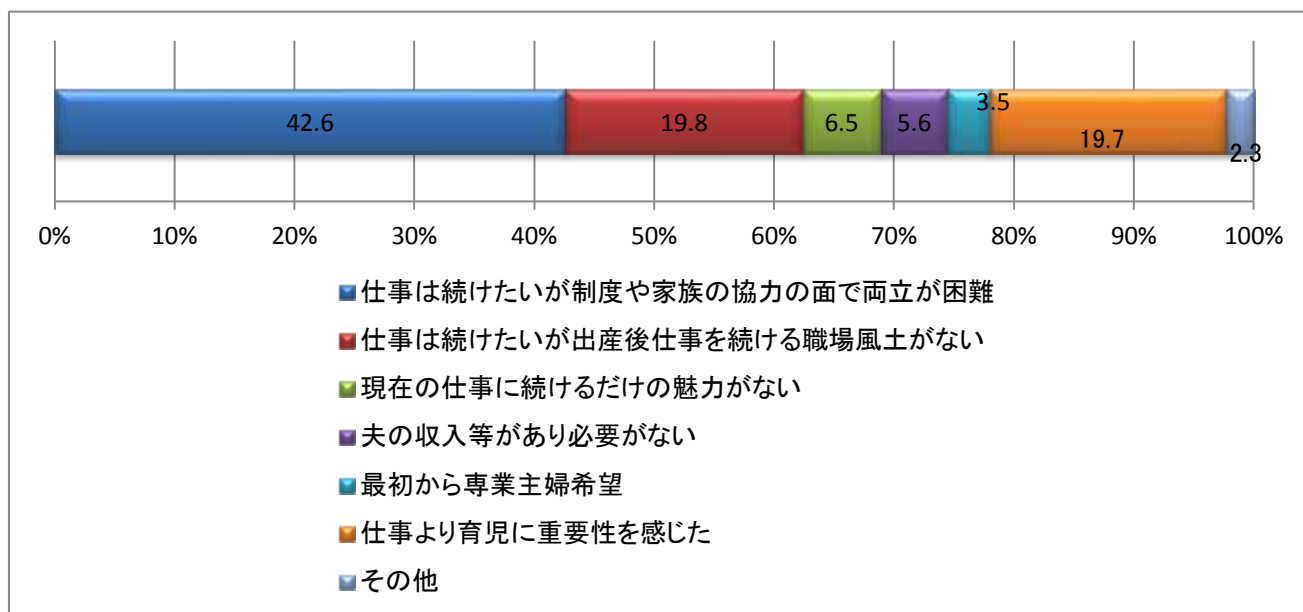
### 2. 女性が仕事を続けていく上で支障となっているものについて

女性が仕事を続けていく上で支障となっていることは、「育児休暇や介護休暇の制度や保育施設が不十分」「男性に比べ賃金が安く、職種も限られていること」「再雇用や再就職を支援する制度等が不十分」といったものを『そう思う』という回答が多くなりましたが、「家族の協力や理解が得られない」「職場に結婚・出産した女性が働きにくい雰囲気がある」「責任ある仕事を女性に任せない傾向がある」「残業などの勤務時間が長いこと」「職場で必要とされる資格や技術等が不十分」については『そう思わない』という回答が最も多くなりました。



### 3. 第1子出産を機に離職する女性が多いことについて

第1子出産を機に離職する女性（いわゆる『M字カーブ』）が多いことについては、「仕事は続けたいが、制度や家族の協力の面で育児と仕事の両立が困難だと思う」という回答が42.6%と最も多く、前の『女性が仕事を続けていく上で支障となっている』設問で回答が多かった「育児休暇や介護休暇の制度や保育施設が不十分」「再雇用や再就職を支援する制度が不十分」といったものを裏付ける結果となりました。



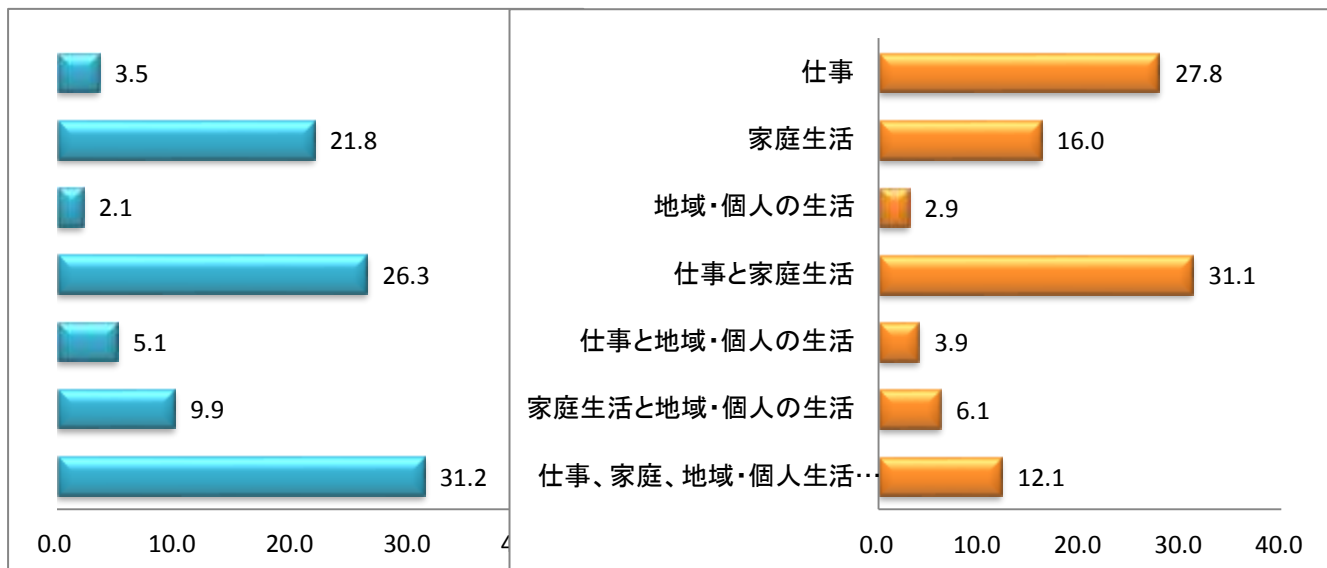
## ワークライフバランスについて

### 1. 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の両立に関する希望と現実

希望としては「仕事、家庭生活、地域・個人の生活を両立したい」が31.2%と最も多い割合となりましたが、現実での割合は半分以下となっており、「仕事」は希望としては少ない割合でしたが、現実では「仕事」の割合が多くなっています。また、「仕事と家庭生活」や「家庭生活」は、希望と現実でほぼ同じ割合となっています。

【希望】

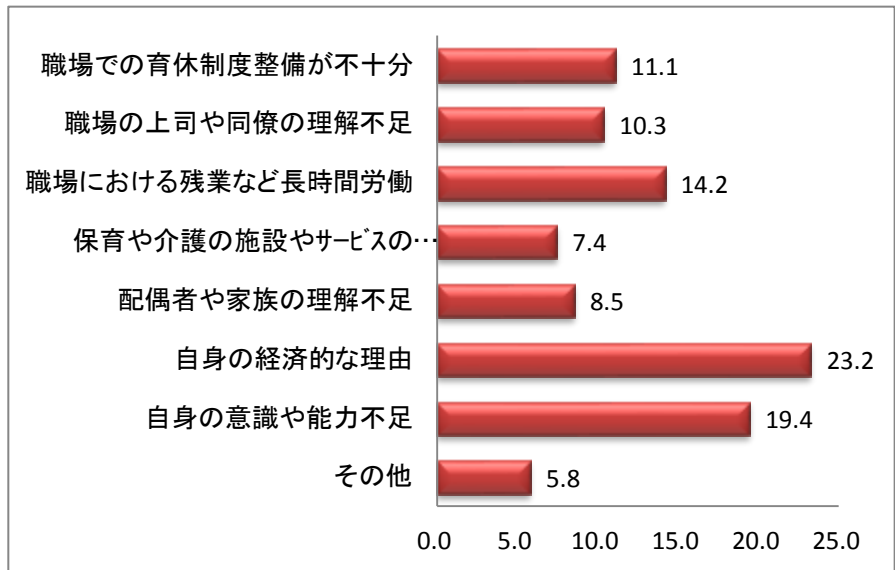
【現実】





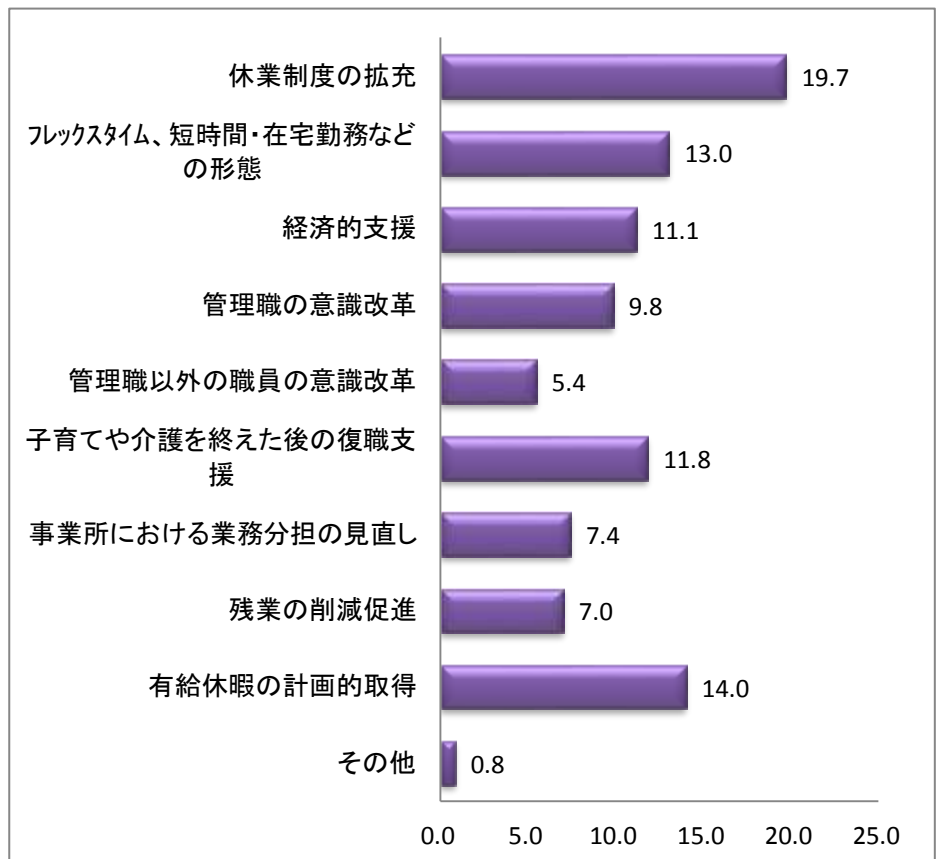
## 2. 「希望」と「現実」が異なる理由について

「希望」と「現実」の異なる理由については、『自身の経済的な理由』が最も多く、次いで『自身の意識や能力不足』『職場における残業などの長時間労働』が続いています。



## 3. 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進するための取組みについて

「仕事と生活の調和」（ワークライフバランス）については、「育児や介護などの休業制度の拡充」が大切との回答が19.7%と最も多く、「有給休暇の計画的取得」や「フレックスタイム、短時間勤務、在宅勤務などの柔軟な勤務形態」も大切との意見が続いています。



今後の男女共同参画社会づくりについて、町民の皆さまからたくさんのご意見をいただきました。

<自由記載>

<p>私の若い時と違って今の若い男性(既婚)は地域の活動において奥さんに協力してるなと感じるようになってるので将来は楽しみにしているところです。育児にも頑張っているように見受けられます。団塊の世代以上の方が妙なプライド・意地を捨てて協力していけば若い人ももっと輝いてくれると期待しています。私たちも若者たちに協力していったらもっと素晴らしい地域、町になるのではないのでしょうか。</p>
<p>私に関しては、昔から料理・洗濯・片づけは得意なため、土日は料理が趣味で買い出しも含めて実施しています。性別は関係なし！(50代・男性)</p>
<p>若い人が残って仕事ができる企業等多くあると人口も増え人手不足もまかなえる。人手不足の解消で時間外労働も減り、また地域活動に参加できる時間も生まれる。仕事しないと生活に困るので仕事優先となるので地域活動に参加してくれない人もいる。</p>
<p>料理などなんでも積極的にやっておかないと一人になってから困ります。</p>
<p>役場自体も男性優先でしょうか？女性が重要なポストに就く割合はどうでしょう。数合わせだけで解決する問題でもなく難しいです。</p>
<p>昔から集落では男女共同参画社会づくり等の話が出来ると雰囲気すらありません！男性に1歩も2歩も下がって子育てや介護をする女性が称賛されるのですから。</p>
<p>まだまだ日本の国自体、女性を下に見る傾向、風習があるため、国を挙げて、意識を変える必要があると思う。</p>
<p>まず女性は家庭、男性は仕事という固定観念をなくし、家事や育児に男性も興味を持つ。夫婦共働きでないと生活できない現代社会の中で、男女関係なく、皆で子育てや介護・地域活動へ参加することは大切なことだと思います。地域や事業所も一緒になって子育てや介護をする気持ちになることが大切だと思います。</p>
<p>保育所の日曜・祝日の預かり制度。</p>
<p>夫婦での話し合いが大切だと思います。</p>
<p>夫婦の絆を強くすること。子育てに対する教育。介護制度の理解を深めて、活用できる施設を増やすこと。</p>
<p>夫婦で共同話し合っ、介護や子育てにも参加したらいいと思う。地域のことに、年だからとか、何かと用事を作り地域の事業に参加をされない人が多いと思う。</p>
<p>夫婦間でもお互いに協力し、お互いに尊重することが大切と思う。</p>
<p>平等と言っても、やはり男性、女性といった性差による良い意味での機能分担は必要だと思います。男性・女性共に互いの持つ機能の長所及び短所を理解し、出来るときに出来る人が出来ることを協力して行うという意識を社会全体で共有できるような取組みが必要ではないかと思います。まずは性差について知ることからでしょうか。</p>
<p>人吉球磨では男女の差が大きいと思う。まずは経営者が変革する必要がある。</p>
<p>働く場所がまず必要。加えて、非正規だと休みも十分取れずまた経済的にも厳しい。</p>
<p>農業という仕事は女性も男性と一緒に仕事をしていますので、男性も家事・子育て・介護など色々と協力してくれます。女性も積極的に出席し勉強していくことだと思います。日頃から家事など手伝ってもらうように話し合いをしていくこと。</p>
<p>なんといっても小さい時からの教育が大切だと思います。思いやりのない自分ばかり考えて人の気持ちがわかるような人格を育てることが一番で男性も料理、洗濯、掃除等を少しでも手伝おうと思う気持ちが必要だと思います。仕事面では色々ありますが。</p>
<p>何事も男女共に支えあって互いに協力し理解すること。思いやりも大切だと思う。</p>
<p>常日頃から夫婦の話し合いと平等な立場でること。理解しあい、女性だけが家事全般をするのではなく、夫婦2人でやっていく事が必要かと思う。男性も子育てに参加すると子供の信頼を得ますよ。</p>

超高齢化社会を迎え男女がそれぞれ特徴を活かす場が今後益々重要になってくると思います。
地域においては、男性の家事・子育て・介護に対する意識が低い。介護については、特に嫁がすべきとの風習があるので男女問わず、行政側の積極的なアピール(講習会等)で男性の意識改革へ繋げてほしい。
男性も女性と共に参画出来るように職場の意識・雰囲気を変えていくことが必要だと思います。
男性も気軽に育児休業や介護休業をとれる職場・職場環境になってくれると、女性も仕事を続けやすいと思う。けれども女性にしか出来ない出産はどう頑張っても仕事に影響してしまうことは免れないし、いくら男性や家族の手助けがあったとしても、育児、子育て、家事は女性が主となるのだろうと思う。
男性は女性をゆるやかに受け入れてもらえますが、女性は男性の受け入れには厳しいのではないかとと思います。生理的に男女は違いますので、ゆとりでお互いを理解するようにし、男性の方が女性に気遣いをして小さくなっているようにも思います。男性よ、もっと遅くあれ!!
男性は、女性は…という決めつけ的な考えがなくなれば、もう少し女性の働きやすさが出てくるのではないのでしょうか。「男女共同参画」というコトバも、男たちが好き勝手にやっている社会に女も加えてやってもいいよ。という風な印象を受けます。今の社会はうまくいっていますか？
能力・意識不足等個々の問題もあると思うが、女性の家事労働がいかに多く負担になっているかを理解できず当然のことと考えている男性が周囲に多いと感じている。子育ての間は特に男性の協力は必要であると思うが、男女が平等意識を持ち、助け合いの精神を自覚できる勉強会・サークル活動を立ち上げ、女性が意見を述べられる場が必要
男性の意識改革。家事・育児がどれだけ重労働で大変かを身を以て知り気付いてほしい。
男性と女性の性差は埋まらない。お互いの良さ・違いを認め合って理解し、協力して生活・仕事をしていけば良いと思う。
男性自身、又は回りの人の意識改革も必要だと思う。女性がするのが当たり前と思われている為(たとえば親と同居している場合とか)参加しづらいということもあるので一人二人と男性がさんかするようになると変わると思う。(最近の男性は家事子育てに関しては手伝っているところが多いので、これからはもっと多くなると思う)
男性しか出来ないこと、女性しか出来ないことがあると思うので、それを踏まえた上で、お互いに理解し合う必要があり、不足分を補っていける行動力・政治力が必要だと思う。
男性が考えを変えることだと思います。若い方は男性でも育児に積極的ですが、60歳以上の方は考え方が古いと思います。
男女平等と言われますが、私自身男女差がそれ程多く感じることはないため、不自由さはありません。そのため、この男女共同参画について考えたこともなくアンケートにどう答えていいのか迷いました。皆さんそんなに不平等さを感じていらっしゃるのでしょうか？それが気になります。
男女共同参画を男女が同じことをすると考えるのはおかしいと思う。男性の体力と同じように女性が同じ仕事をするのは無理な話だし、女性に乳房と子宮があり、子供を育てていくのを男性が同じようにはできない。子育て中は女性が子育てに集中することが出来るように男性の育児休暇などと考えず、行政+企業が子育て中の世帯への十分な補助をすればいいと思います。そして、女性が仕事へ復帰するとき、すんなりと元に戻れる社会づくりが大切だと思います。税金をもっと若い人たちに使わないとあさぎり町はますます過疎化してしまうでしょう。※ただし、祭りで踊ってばかりいても低レベル化してしまいますけど。
男女がすべての面において平等であることを明確にすること。学校での教育や法律の改正等、全ての面で見直していく必要がある。
すでに子育てすべて過ぎ去った今、自分達の今迄仕事子育ての時代があまりに違いすぎて、今の若者の現実はいたいへんだと思う反面、50年前の生活を少しでも語り継ぎながら大事なことはいつまでもつなげていければ老若男女思いやりの心は繋がっていくと思います。
女性の育児ストレスの軽減を図ってほしい。男性の育児協力出来やすい土台づくり。(制度等)
女性が社会や地域活動に進出出来るような環境を育成していくことが大切だと思います。
職場の意識改革、理解が必要であり柔軟に対応できる組織作りが重要だと思う。
主人が残業。休日出勤のため家事その他とても頼める状態ではない。せめて残業は週2程度に、休日は休日としてしっかり取れるような職場の体制にして欲しい。少子化が著しい。そちらも待たなし!!共通することだと思う。
仕事に就くことで給与を得、税を納めることができ、町が潤う。男女共に働きやすい環境を支援し整えていけば、家庭との調和も取れてくると思います。家庭では、学校行事や介護・地域活動に男性がもっと積極的に参加し、女性任せにたらい、トウー 企業等も地域活動等! やおい、トウー 柔軟な意識改革が必要だと思います

スははヒにほつないのナ。正未すじ地域/口動守レラフのナ、不秋は感職以手ガ必女ハシ心イのフ。

様々な問題・課題があると思いますが、まず子供たちにも分かるように「男女共同参画」の名称を変えることができれば普及しやすくなるかもしれません。

これからの社会では男性の参画が介護や地域活動で求められると思います(心豊かに暮らすために)防災に向けて女性の参画が各家庭・地域の防災意識の向上につながる。お互いを認め合い、支えあう家庭地域になれば居心地のよいあさぎ町になると思う。

子供の頃からの教育、やって当たり前という考えを子供の頃から教えないと結婚してから言ってもなかなか行動しない。又は一々言わなくてはいけない。親と同居ならそれも言いにくい。年寄りたちは女だからしなくてはならない、男はしなくても良いという考え方なので苦労してきました。今は主人にも少しはさせています。

高齢の方の意識は変えられないと思います。時代とともに変わっていくと思います。問12の1・8・9が重要と思います。

現実として共働きが多いので男性も女性の仕事を理解し家庭における女性の家事等に感謝の気持ちをもってお互いに協力してやっていくことが必要だと思います。

結婚している家族・親と住んでいる人たちに関わらず、男女問わず家事・子育て・介護など自分自身が時間があり出来るなら、いろんなことをすべしと思う。仕事で疲れたからしたくない、面倒がるのは自分のわがまま。まだ日本の社会では女性が家事・子育てなどをすることが多いと思われる。そういう考え方を改めないで。

家事・子育て・介護は未だに女性がするものと決まっているので、もっと男性にも一緒にやるという認識を持ち(仕事さえすべしと思っている)、料理教室や介護の仕方などの講習とかをやってもらいたい。女性も一緒に参加するよう。

家事、子育て、介護等女性に負担がかかっていますが、核家族の中などでは少しずつ男性の参加が増加しているように思います。また職場や地域について言えば、なかなか女性の進出が進んでいないように思います。社会全体にまだそのことを不自然だと感じていないと思います。また、もう一つ問題なのは女性自身が責任ある地域や役職につけば責任も同時についてきますから、楽をするために向上心を持たないで逃げている面もあると思います。

各家庭の職業によっても男女の働き方が違ってくると思います。若い人たちは、ずいぶん平等感を持っていると思う。教育の質の違いを常々感じています。

男の人が仕事一局集中型ではなく家庭や地域に目配り気配りがほしいかな？定年してから浮いた感じでは寂しい！男性の力、協力が家庭でも地域でもほしい！

お互いの理解力と認知力を高めていくことが必要でしょう。お互いの思いやりや気遣い。

今の40代以下の男性は割と食事の手伝い・子供の保育所送迎などに協力的ではないかと思えます。お互いに出来ない所をカバーしあわなければ、どちらかがボランティアなどに参加しにくいのではないのでしょうか。

今時の若い人は血洗い、子育て等々、女性と同じようにやられていると思うけど私達みたいに年齢が高い人はなかなか出来ないと思う。現に夫など何もできず一食も自分では作れません。若い時から慣れることも必要だと感じます。(私自身は男性がキッチンで洗い物などされると嫌ですけど…)

政府の動向次第です。官民の休日・賃金の格差を無くす(制度改革)・核家族化してきている現代社会においては家族及び地域活動への対応が薄らいでいる状況だと思います。官と民との違いが大きく影響しており根本的に男女共同参画社会づくりは民間人については企業の取り組みにより大きく左右されます。行政に従事されている人は完全週休二日制の為、会社勤めの人たちは今もお完全化されていない面を理解されていないと思います。問題点は賃金や休日の見直し先ずは地方での取り組みはそういうところからが第一歩だと思います。

人・家族に思いやりの気持ちを持つこと

具体的に必要なのは思い浮かびませんが、社会的性別の固定したイメージ。例えば、男は仕事、女は家庭といったイメージ。まだまだそういったイメージは強い気がします。性別に関わらず、様々な生活の場面や仕事で個性や能力を十分に発揮できるような柔軟な社会環境が整えば自然と共同参画社会になってくるのではないのでしょうか。

昔と比べると少しずつ世の中の動きは変化していると思います。個人の意見としては、世の男性がもっと強くなってほしいと思います。特に若い人たち。将来が不安でなりません。真の男らしさのある方が激減されているようで、私はトップは男性で、それを支える女性しだいで大きく変化ありですかね。